

2009 日韓合同ワークキャンプ報告書

@瑞山市永楽農園

Friends international work camp (FIWC) KOREA



もくじ

何故韓国でワークキャンプをするの？	3 pg - 5pg
どんな村でワークキャンプをしたの？	6pg - 7pg
ワークキャンプでなにをしたの？	8pg- 11pg
次回に向けての改善点は？	12pg - 14pg
どんな人が参加したの？	15pg - 18pg
韓国側の参加者ハナフェって？	19pg
FIWC ってどんな団体？	19pg
参加するにはいくら必要なの？	20pg
ヨンラク農園マップ	21pg

・日程：8月5日～8月15日 ※8月5日はソウルにて決起会。

8. 6(木)	8. 7(金)	8. 8(土)	8. 9(日)	8. 10(月)
<ul style="list-style-type: none"> ☀ ○ 出発 - バスで2時間 ○ 村人に挨拶 キャンパー紹介 ○ 村の紹介 ○ 荷物整理 	<ul style="list-style-type: none"> ☁ ☂ ○ ワーク 始め ○ 家庭訪問 訪問報告会 ○ 韓日間交流行事 - レク、キャンプ ソング 	<ul style="list-style-type: none"> ☂ ☁ ○ ワーク 草刈 ○ ワークキャンプ 講座 by RSK 	<ul style="list-style-type: none"> ☀ ○ 教会 ○ ミーティング ○ ワーク (タイヤ集め) 	<ul style="list-style-type: none"> ☀ ○ ワーク (草刈、タイヤ) ○ ディープラブ 代表さんの話 ○ ホームステイ
8. 11(火)	8. 12(水)	8. 13(木)	8. 14(金)	8. 15(土)
<ul style="list-style-type: none"> ☂ ○ ワーク (草刈、 タイヤワーク) ○ ホームステイ 	<ul style="list-style-type: none"> ☂ ○ 日本文化パーティ 準備 ○ ホームステイ 	<ul style="list-style-type: none"> ☀ ○ ワーク (タイヤワーク、 道舗装) ○ 川遊び ○ ホームステイ 	<ul style="list-style-type: none"> ☀ ○ 反省会 ○ ミーティング ○ 日本文化紹介 パーティ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大掃除 ○ ソウル到着 ○ 飲み会

Q. 何故 韓国でワークキャンプをするの？

日本と同様、経済発展を遂げた韓国。

そんな韓国において私たち FIWC がワークキャンプを行う理由

A.1 草の根の交流 ～近くて遠い韓国～

日韓交流という点から韓国に行ってワークキャンプを行う意義を考えてみた。

日本と韓国はとても近くて、しかしある意味ではとても遠い国だ。

近いという点では日本と韓国は時差がなく、生活様式も似ている。

また、互いの国は昔から関わり合っている。しかし、歴史的な問題や偏見で両国の間にはまだまだ深い溝がある。

それらが、両国を遠くしている。

日韓両国はお互いを知り、協力し合う必要がある。

それを実践するには、草の根の活動でこつこつと積み上げられていく信頼関係が必要だろう。

私たちは韓国でワークキャンプをすることで、その溝をなくすことはできなくても浅くすることはできるだろうと考えた。

ワークキャンプで日本人と韓国人キャンパーが共に働き、協力しあうことでお互いを知ることができ、それはやがて絆となる。

こうしてやがて偏見はなくなってゆくのだと思う。

日本人キャンパーが韓国に来てワークをすることで、村の人たちは少なくとも日本人に対して嫌な印象は受けないだろう。一生懸命ワークしているのを見ているうちに村の人たちが持っている日本に対する偏見はなくなっていく。

同じことが日本人キャンパーにも言える。韓国に行ってワークするということは多くの韓国人に出会うことになる。出会ったことで持ってきた偏見や思い込みがなくなってゆくのだろう。こうした草の根の交流が広がってゆけば、やがては国レベルでの日韓の相互理解につながってゆくのではないだろうか。

日韓のキャンパーが協力して何かをすることで日韓友好に繋がる。ワークキャンプの出来事を後にそれぞれが周りの人に話すことで、その話を聞いた人も偏見、思い込みが無くなってゆく。このようにして少しずつ日韓の友好関係を築くことができるのだろう。

(文責：小川一枝、佐藤正明校正)



続 Q. 何故 韓国でワークキャンプをするの？

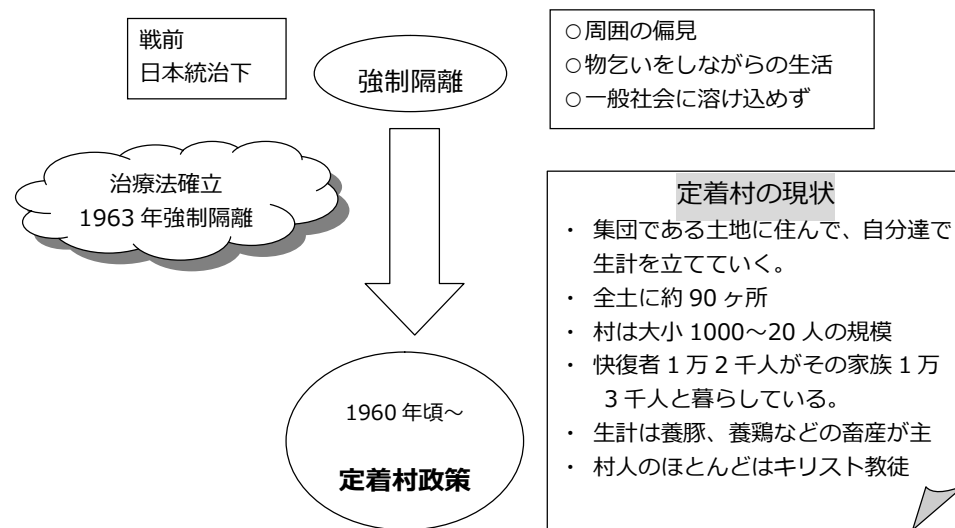
A2. ハンセン病問題へのアプローチ ～近くて遠い韓国～

韓国でのハンセン病政策は日本の強制隔離とは異なる形で行われ、集団的に畜産や農業を営む「定着村」が作られた。

この定着村で、ハンセン病元患者の方々は農業を営み、家族で暮らしてきた。

日本と大きく異なる点がここにある。社会から隔離され、名前を捨て、家族と別れ、子どもを作ることを絶たれた日本のハンセン病療養所とは違い、韓国の定着村では農業で社会とつながり、家族を作ることができた。

韓国のハンセン病政策 定着村



しかし、差別や偏見という点では彼らも日本と変わらずとてもつらい経験をしてきている。定着村の子供たちは学校でも特別視され、周りの村の子供たちは「あそこには遊びに行ってもいけない」と親から言い聞かされていた、という話を数年前のキャンプで聞いた。また、いまでも定着村周辺の町の商店などでは「あの村には配達には行きたくない」という言葉が出る。

FIWC によるワークキャンプが始まった 70 年代に比べると韓国のハンセン病定着村は物質的には確実に豊かになった。道路整備や下水溝の整備は今では必要とされるワークではない。では、生活に必要なワークが存在しない韓国のハンセン病定着村で我々がワークキャンプを行う意義とはどこにあるのだろうか。

韓国ではすでに生活インフラに関わるような建設系ワークはほとんど無く、現在のワークキャンプでは季節に応じた農作物の収穫や道路脇や畑の草刈り、下水溝の清掃などが主なワークとなっている。

高齢化の進んだ定着村ではこのような作業も立派なワークとなり村人にはとても喜ばれる。だが、それだけでは我々がわざわざ日本から行かなくても現地の業者や韓国のボランティア団体だけでも済むことだ。

FIWCとして韓国でワークキャンプを行う意義はどこにあるのだろうか。

まず、はじめに考えられることは村人の心の問題だ。これまで差別や偏見に苦しんできた定着村の住人にとって、外部との交流は彼らの心を少しでも明るくすることができるのではないだろうか。いままで周辺の村からも人が入ってこなかった片田舎の村に首都ソウルから学生がやってくる。さらには日本からも若者がやってきて、自分達の村でなにやら仕事をしていく。村の中はワークキャンプの期間は若者で溢れ、にぎやかな祭のような雰囲気になる。一緒に語り、歌い、短い夏を共有する。このようなことが村人の心を少しでも明るくしているのならば、我々が韓国に行く意義はあるのではないだろうか。

もうひとつ意義を挙げると、韓国の定着村を我々自身の学びの場、成長の場として使わせてもらっているという点がある。韓国は日本からとても近い国だ。長期間の休みが必要で美質学生でないと参加が難しい他国のキャンプとは違い、韓国キャンプは数日間の途中参加が可能で社会人でも参加できる。これは初めて海外ワークキャンプ参加したいという人にとって最初の一步を踏み出しやすい大きな理由ではないだろうか。ハンセン病の実態を現場で学べるFIWCワークキャンプに社会人からでも気軽に参加できる、いわばゲートウェイとしての機能。これは韓国キャンプでなければ担えない役割だと考えている。ワークをすることで様々なことを村から教わることができる。そのような「学びの場」としての韓国キャンプの意義をこれからも考えていきたい。



Q. どんない村でワークキャンプをしたの？

A1. 忠清南道 瑞山市 音岩面 永楽農園

ソウル空港
バスで2時間
瑞山市ターミナル
タクシーで10分
ヨンラク農園へ



■ 村の詳細情報 ■

- 村の人々：** 25 所帯、平均 60～80 歳
- 生計手段：** 養豚、養鶏業（しかし畜舎の半分は空いている。）
- 第2世たちの現況：** 村には在住しておらず、外部で仕事をしている。
村との行き来は頻繁にある様子。
- 村の子供：** 赤ちゃんは何人かいる。村人の孫が夏休みで遊びに来ていた。
- 宗教活動：** キリスト教。村周辺の山の頂点に教会がある。皆敬虔な信者

A2. キャンパーの生活環境



宿舎：元小学校の施設を使用
寝る場所は男女別々の部屋。女子は20畳位の部屋を使用し、男子は10畳位の部屋を荷物置き兼寝る場所として使用。
寝る時は寝袋やブランケットを、枕は空気で膨らます簡易枕を韓国側が用意。八工が多かったので、電気八工たたきが活躍！



トイレ・シャワー： 宿舎内のシャワールームを使用。

※シャワーは冷水しか出ません・・・

※基本的に室内のトイレとシャワーは女子用とし、屋外にブルーシートで囲った簡易シャワー室が男子用としてます。男子用トイレは屋外にあるぽつんと便所です。夜は真っ暗で足元が見えません。臭いもひどい・・・



女子トイレ&シャワー



台風でブルーシートシャワーが...



洗濯： 毎日の洗濯は手洗い。

天気のいい日はみんなの洗濯物をまとめて、洗濯ワークをした。

村人と仲良くなってからは、村人が洗濯機を借してくれた！

食事： キッチンとして使用した部屋は宿舎から少し離れた場所にある。村人が使用するバス停の近くにあり、バスを待つ村人との交流もできた。毎日の食事は、K P（キッチンプロデューサー）が食事補佐当番を決め、K Pと補佐が作った。

食堂が狭かったので、青空食堂！！



Q. ワークキャンプでなにをしたの？

A1. ホームステイ

韓国キャンプでは、例年家庭訪問という形で村の各住居に訪問していた。

さらに例年の具体的な行動内容としてはお話を伺うという部分に比重が置かれていた。

しかし今年度は、村人にとっても友好的な方が多く、宿泊させて頂いたり、ご飯を御馳走して頂いたり、洗濯やシャワーをさせて頂いたりとても多くの交流ができた。そういった部分では例年よりも多くの部分で村人と交流することを可能になったと言えるであろう。

但し、反省点としては各家の住人単位で考え方に差があり、ご飯を気軽に出してくれる家庭もあれば、家にお邪魔する事についても若干の拒否反応を所有していた家庭もあり、各キャンパーがホームステイする家によって交流の深さに差が出てしまったことが挙げられる点である。

今度としては、いかに村人に負担を掛けない形で交流を図っていくか（対外的部分）、キャンパー内での交流格差をどう是正していくか（内外的部分）の2つが大きく挙げられるのではないかと考える。



A2. レクリエーション

今回、日韓のレクリエーターが大活躍だった。ミーティング後毎日キャンプソングを歌い、ほぼ毎日ゲームをし、日本文化パーティーを取り仕切り、毎日を盛り上げていた。

アイドルのダンス講座



地図作りゲーム



キャンプソング



川遊び



日本文化パーティ



韓日のレクリエーター
アイドル&かずびよん



A3. ワーク

今回のワークキャンプでのワーク内容は主に下記3点。

1. 宿舎の敷地内外や村人の家・畑、教会等の草刈り・村人の家の草刈り
2. 村人の家の玄関前の崩れている斜面の補正（タイヤを積み重ねる）
3. 狭くて通りにくい道をセメントで固めて広くし、村人が乗るバイクで通れるようにする

【草刈りワーク】

草刈りは意味があるのか？

草刈りをしながら、ほとんどのキャンパーが持っていた疑問。しかし草刈りは、こんな意味がある。①他にやることがないから自分たちが今できることをするため、②働いている姿を村人に見てもらい、信頼を得る、③外でワークすることで、村が活気づく。

その後の大きなワークを頂くための信頼を得る手段としても非常に重要なワークであったと言える。



【道拡張のワーク】

道の脇にあった花壇を取り崩して、再度構築するワーク。バイクや車がしっかりと通れる広さへ作り直した。



【タイヤのワーク】

タイヤによる斜面の補正は、最初はやり方がわからず戸惑っており、ワークリーダーも悩んでいたが、韓国側の男性陣が軍隊で慣れているということもありリードしてくれた。

男女での作業分担内容として、男性陣はタイヤを並べ、タイヤの空洞に大きな石や土を詰めていき、それを積み重ねていく作業を、女性陣はタイヤにつめる大きい石を村のいたるところから探して運ぶ作業を、それぞれ行った。



【ワーク全体を総括して】

タイヤのワークについては、最終日までに間に合うかどうかという進行状況であった。

そのため、ひどい豪雨の中でも作業していた日があり、キャンパーの健康面についての配慮が少し欠けていた部分があった。また、草刈りをしていた中の一人が、傘を差そうとしたときカマで指を切ってしまうというアクシデントも発生してしまった。

更に1つ述べるならば、タイヤのワークは最終日までに終わらせるために、戦力となる人を集めてワークをしたため、特に女性は戦力外と感じてしまい、ワークをしたくても参加できなかった人もいたようだ。

上記の他にも排水路のパイプの整備の依頼もあったが、後半にワークが集中してしまったため、行うことができなかった。

これまで韓国キャンプでは、インフラが整っているため「ワークがない」と言われていた。しかし実際にはこれだけのワークが存在した。これらのワークは、村人と仲良くなるうちに彼らから直接依頼が来るようになった結果である。

ワークニーズはただ待っているだけでは把握できない。村人のなかに私たちのほうから入り込んで行くことが重要なのだと実感した。

Q. 次回に向けての改善点は？

今回のワークキャンプをメンバーで振り返って、様々な部分について反省点が出てきた。話し合った内容について、項目ごとに反省点と改善点を以下に記述した。

項目	反省点	改善点
スケジュール	初日に、7時起床、8時朝食、12時昼食、18時夕食、20時会議という大まかなスケジュールを決めた。けれど、常に予定の時間を過ぎたり、実際には食事も会議の時間も違う時間になっていたり、スケジュールが流動的だった。	リーダーの意向に合わせ、スケジュールが流動的になっていた。今後は生活リーダーがスケジュールの管理とタイムキーパーを行う。各リーダーは、生活リーダーが決めた枠組みに合わせ、自分たちがやりたいことを申し込む。生活リーダーは申し込まれた内容を調整する。
スケジュール把握	紙に張り出されていたので大体把握できていたが、もっと効率よく紙を使用してもよかった。	生活リーダーはスケジュールの予定を張り出す。予定の隣に空欄を作り、そこにその日の進行状況や結果を書き出す。これによりキャンパー全員が、その日の予定と結果を把握できる。また途中参加の人もキャンプの流れを把握しやすくなる。
時間	時間にルーズ、ずるずる過ぎてしまう点。	食事の時間を守ることはキャンプの基本。皆そろって「いただきます」をするようにしよう。村人に誘われて、KPが用意したご飯を食べられなかったときもあった。また、「欠席」してもいいことをアナウンスする。その時間にいなかったら、欠席。それでいい。必ず全員が「参加」する必要はない。
会議	リーダー会議のあとに、全体会議が21時過ぎから開始し、終了が23時過ぎ。会議の時間が長い内容は薄かった。ほとんどリーダー会議の報告会になっていて、やる意味はあったのか。皆で意見交換をする雰囲気なかった。韓国語だけの会議もあった。	必ず21時までに終わらせる。リーダーがそれぞれ自立して物事を決めれば会議に時間がかからず、伝達事項もスムーズにいくはず。会議が早く終われば、そのあとのレクに時間がとれる。レクでディスカッションやワークショップをやる時間もできる。
レクエーション	レク係りが非常に頑張っていた。レクノートもとても役に立った。キャンプソングはキャンプ前に決めておくべき。ハンセン病についての勉強会などの時間も欲しかった。	キャンプ前に韓国側と連絡をとり、キャンプソングを決めておく。次からもレクノートを活用する。また、ディスカッションやワークショップも取り入れる。

ワーク	少しハード過ぎた部分があった。また、事前の下見や準備が十分でなかったために、目の前にあるワークをこなしているだけで、自分から何かを提案したり、皆で築き上げているキャンプではなかった。草刈はやる意味があるのか。体力に個人差があって、誰に合わせるべきか迷った。体力がない自分がハードなワークに関わっていいものか、引け目を感じた。	キャンプ前の下見で大きいワークを決める。計画する時間が十分にあれば、無駄な時間が省け効率よくワークができる。キャンプが始まってから村人と仲良くなる過程で依頼されたワークが後半多かったから、キャンプ初日に家庭訪問して、村人にワークがないか調査する。自分達がやるワークの意味、ボランティアの意味について皆でディスカッションする。体力の差とか関係なく、やりたい人がワークに参加できるように環境を作る。
生活環境	建物は綺麗だが、ハ工が多く、食堂の衛生環境が気になった。 水シャワーは少し辛かった。 寝る場所は男女別で決めていたのに、女子部屋にカップルで寝てたりした。トイレは水洗が1箇所（女子トイレ）、ポットトイレが2箇所（男子トイレ）。トイレが少なかった。	食堂の不衛生さ改善のため、KPが責任をもって諸注意をキャンパーに喚起する。 女子部屋で男子は寝ないというルールの徹底。村人と早く仲良くなれば快適な生活環境（キャンプ後半、村人が自分の家のシャワーを貸してくれ助かったが）が得られるのでもっと早くより交流をし、仲良くなる努力をする。
村人訪問・ホームステイ	ホームステイは初めての試み。 村人がオープンに受け入れてくれて楽しく交流ができた。反面、韓国語やハンセン病についての知識が不足していたことを感じた。それと訪問した場所によって当たり外れ（深く交流できたところとそうじゃないところ）があった。相性の問題は難しいが・・・。	相性はしようがないが、ホームステイ後、キャンプ中にそれぞれの班の報告会を行い皆で各自が感じた部分を共有する場を設ける。また、ハンセン病、韓国語を事前ミーティングで学ぶ機会を設ける。
開かれた会？	色んな人が参加できたという意味では開かれていたが、その分その場に馴染むのに努力が必要だった。 また、仲良しグループがいて、入りにくかった部分も。キャンパー同士の交流が少なかったと感じるキャンパーもいた。	仲良しグループで固まらない様な工夫を施し、キャンプ前にはキャンパー紹介資料を作る。 キャンプ前にもっとお互いを知る機会を作る。毎日のミーティングで今日来た人、明日帰る人の紹介をする。最終日のミーティングではキャンパーの感想を話し合う。
事前準備について	下見の薄さと計画性のなさが目立った。また、韓国語やハンセン病についての知識を皆で事前に学習しておくべきだったという意見も。 キャンプ前の事前ミーティングの回数ももっと増やすべきだった。	募集の時点で事前ミーティングの日を明記しキャンプ前のミーティングにキャンパー全員必ず参加させる ミーティングではハンセン病基礎知識、基本の韓国語、ワークキャンプについて学び、ミーティング以外にもディスカッションの開催を検討。さらに日本側からもキャンプの下見へ参加を。

続 Q. 次回に向けての改善点は？

リーダー業務	それぞれのリーダーが自分は何をやるべきか把握できていなかった。ゆえに自立して行動できなかった。リーダー業務がきちんと明記されていなかったことに起因する。	各リーダーの役割を明確化。詳細は下記に記載。
--------	--	------------------------

リーダー業務

■ ワークリーダー

ワークニーズ、ワークの把握、運営。キャンパーがワークについて分かる環境の構築に努める。

■ キッチンプロデューサー（KP）

キャンプ初日にキャンプ全日分生活班を見出し、張り出す。また、当番の明確化や、整理整頓表の作成、諸注意を作成を行い、食事等に関わる部分についての情報共有を担う。また、仮に次回生活班という班制度を導入化する場合であればその部分の運営に携わる。

■ 生活リーダー

一日のタイムスケジュールを組み、張り出す。また、一日の時間のタイムキーパーの役割を行いスケジュール通り進行しているかを管理する。また、一日の終わりにその日の進行状況、結果も張り出し情報の共有化を推進する。その他、葉の管理や日々の修繕、スリッパを片付け等も率先して統括。

■ 記録リーダー

写真を撮りまくり、たくさんのデータ収集。また一日の終わりには、「今日の一枚」を発表する。

■ 総務リーダー

ホームステイ等の準備や班割り等を行う。

■ レクリーダー

レクの内容策定、実施。実行キャンプ前に韓国側とキャンプソングを決める。

■ 会計

韓国側会計とキャンプ費の管理をする。

Q. どんな人が参加したの？



清水 あゆこ

看護師
韓国・中国キャン
プ参加経験者

学生のときからワークキャンプを続けて、今年で8年目。8年目にして初めてのリーダー、そしてちゃんと運営に携わるのも初めてだった。いざリーダーに名乗りを挙げてみたものの、私自身がどう運営すればいいのかを全然把握してなくて、準備が足りなかったり、キャンプ中もみんなをうまく仕切れずに反省だらけ。今まで何回もキャンプに参加してきたけど、結局お客様キャンパーでしかなかったんだなって思った。今回の収穫は、それに気づけたこと。みんなには大迷惑かけたけど、みんなから沢山沢山学ばせてもらった。社会人になっても、こんな風に自分の人生を勉強することができる。キャンプの魅力の一つなんだろうな。



大山 由佳

名古屋私立大学生
08年韓国キャン
プ参加経験者

やー今年も人とたくさん出会えていいキャンプになった！
去年初めてのキャンプの帰り別れがなぜか悲しくなかったのはキャンプってまた会える！そんな気がしてならないところだから。そして今年住所も知らない人たちとまた、当たり前のように再会できました☆
別れてさみしいどころかどどんつながりが増えてくのが魅力の1つです！



大矢 美和

名古屋市立大学生
初参加者

今回初めてキャンプに参加しました。シャワーは水しか出ず、ご飯は辛いものが苦手なのに毎食キムチが出て、ハエが多くて、女子部屋は洗濯物であふれていて、今思い返すとよくあんな生活を送っていたなあと思います。だけど、それ以上にまた行きたいと思う魅力がキャンプにはあります。キャンプ中だけでなく、キャンプ後にもたくさんのお会いがあり、得るものもたくさんあり、キャンプはまだ終わってないんだなあと思感しています。参加して本当によかったです！みなさん、ほんとうにありがとうございました。



大森 友子

立命館大学生
初参加

友人に誘われて、興味本位で参加したキャンプであったが、多くのものを得ることができたと思う。
なかでも、KPリーダーをしていて疲れた時、しんどいと感じた時にキャンパーのみんなが助けてくれたことは、今まで頼ることが苦手だった自分にとって良い経験となった。

続 Q. どんな人が参加したの？



菊地 静華

看護学校講師
韓国キャンプ
参加者

社会人で全日参加は難しいけど、できるだけ参加したい。
体力がないので、途中で抜けても許してね。小鹿島へ行くなど韓国のハンセン病の歴史や施策について学ぶ機会を持ちたい。



杉山 いずみ

北海道医療大学生
初参加

まず最初に、このキャンプは良い意味でも悪い意味でも、すごく「白紙」なキャンプだなあと思いました。
みんなで創っていく、魅力的なキャンプだと感じる一方で、白紙すぎて一人一人のキャンパーのキャンプに対する具体的なイメージがないと成り立っていかない危うさがあると感じました。
そして、自分がお客様気分でのこのキャンプに参加したのがありありと実感できました。今度は積極的にキャンプの企画に関わっていきたいと思いました。
企画とかいって、私ネクラだし空気読めないしぼけーっとしてるのであんまり素晴らしい意見とか言えないけど…。



南部 里奈

会社員
08年韓国キャン
プ参加者

昨年の初キャンプに引き続き、今年も3日間という時間としては短い中でもまた新しい出会いにキャンパー、そして村の方々と一緒に過ごせて本当に幸せでした。

続きは web で…



三浦 勇太

会社員
フィリピンキャン
プ参加者

やっぱり日本人自体も全国から、それにプラスして韓国人と一緒にワークとかやっちゃうていうのは最高に楽しかったです。
途中、皆それぞれが自由すぎる感じもして、あれ？って少し思ったこともあったけど、それはそれでキャンプやなと感じたり・・・
年齢もばらばら、国籍も違う、職業も違う、そんな人達と協働生活できたことは本当に良い思い出です。
あとは、やっぱりもう少し企画とか運営とかに携わりたいなあーとも思いました。もっと深い思いができそうやったから。あと、自分の性格上、やっぱりお客さんて感じだと自分っぽくないので。
この当りに気付けたのも良い思い出ですね！
参加して本当によかったです！
どうもありがとうございました m(__)m



吉田 亮輔

会社社長
中国キャンプ
ネパールキャンプ
参加者

ずっと憧れていた国、韓国。予想以上に日本に似ている国だった。キャンパーも村人も。僕にとって特別な存在になったおばば。彼女にとっても特別でいつづける為に今後どうしていけばいいのか、それを考え続けたい。ワークニーズがないってのは、外から見ているからで、中に入ってみるとニーズは沢山あった。これから時間をかけて、この村と関わっていけたら、いろいろ分かってくるんだろう。空港からのアクセスがよくて本当に参加しやすく最高！！



山崎 亜耶

神田外語大生
初参加

今回初めてキャンプに参加したが想像していた以上に素晴らしいキャンプだった。初日は冷たい水でシャワーをしたり、手洗いで洗たくをするなど、普段の生活では体験できないことの連続で早く帰りたいという思いが強かった。しかし、時間が経つに連れてキャンプの生活にも慣れ、友達も増えたので毎日の生活がとても充実していた。

続きは web で…



小川 一枝

神田外語大生
初参加

私はキャンプに参加できて本当に良かったと思います。

日本人キャンパー、韓国人キャンパー、そしてキャンプ地のお爺ちゃん、お婆ちゃんに出会えたことは一期一会であったからです。もし、私がこのキャンプに参加しなかったら一生出会うことなかったと思います。キャンプに参加したことで、様々な価値観や経験などの話を聞くことができました。お爺ちゃん、お婆ちゃんからも様々な話が聞けたことで、私に何が出来るのか、何をすべきなのかを考えるいい機会になりました。



佐藤 正明

庭師
韓国キャンプ
参加者

こんなに村人と一緒に腹を抱えて笑ったキャンプが今までにあっただろうか。韓国キャンプ参加7回目、今回は村で二泊しかできない短い参加ではあったが、村の人々は明るく私達を迎えてくれた。生活を支えるようなゆる「ワーク」が少なくなった韓国のハンセン病定着村だが、私達が村に行くことで村の人々は出会いに笑い、そして別れに涙してくれた。ここ韓国でワークキャンプをやる意義を改めて認めてもらえたような、そんなキャンプとなった。

続 Q. どんな人が参加したの？



大山 由貴

名古屋私立大学生
韓国キャンプ
参加者

2 度目となる今回のキャンプ。リーダーを任せられたりとキャンプを作っていく立場だった。今キャンプの事を思い出すと、まず辛かったという気持ちになります。事前準備に全然協力できてなかったことをすごく反省した面や、キャンプ中の天候にもとても悩まされました。一方、やはりめっちゃくちゃ楽しかったという気持ちもあり、2009 年の韓国キャンプは「ホームステイ」を盛んに行うことができたことで、村人たちととても仲良くなれたことが本当に嬉しかったです!!

ハルモニ・ハラボジの笑顔がまた見たいですーまたあの素敵な村に行きたい！私の中で、キャンプはまだ続いています。

中略部分あり 詳細は web で…



日野 恵美

神田外語大生
初参加

韓国キャンプを通し、仲良くなったおばあちゃんがありました。おばあさんの家の前でワークをしていたので、毎日おばあさんの家を訪れ、お茶を飲んだり、ご飯を食べたり、シャワーを貸してもらったりとたくさんお世話になり、とても親しくなりました。

ホームステイの日も一緒にお夕飯を作ったり日本や韓国のこと、恋愛や結婚などプライベートな事まで様々な話をし、おばあちゃんの事が大好きになりました。

韓国のおばあちゃんとの出会いで学んだ「優しさ」をもっと身近なところから実践していこう。その思いが私のキャンプの感想です。

中略部分あり 詳細は web で…



持田 恵子

養護学校勤務 初参加

韓国キャンプは、たくさんの事を考える機会だったと思う。ハンセン病のこと、ボランティアのこと、人と人とのつながり……。日常で、こんなにいろいろな事を考える事って最近なかったかもしれない。私の中でまだ答えを出せないことがいくつもあんだけど、人のやさしさがどれだけ嬉しいかを知ることができる所だった。

そして、村のハルモニ・ハラボジから人間の本当の「やさしさ」、「思いやり」って何かを 教えてもらったと思う。

それに対して何のお返しも出来ないけれど、日本人にも韓国人にもまだまだいる、ハンセン病はうつる・怖いと思っている人たちに、「私たちはハンセン病の村で ごはんをごちそうになったり、ホームステイしたりして一諸に生活した」・ことを話すことだけでも偏見を減らす役に立つかなあ〜と思っている。

韓国キャンプに参加させてもらったこと、お世話になったキャンパーの皆さんに心から感謝します。

Q. 韓国側の参加者のハナフェって？

A. 外語大のボランティアサークル

ハナフェは韓国外国語大学日本語学科にあり、ハンセン病快復者定着村を訪問しボランティアをする団体。1986年に韓国外国語大学で発足し、FIWC 関東委員会とは1990年から共に日韓合同ワークキャンプを行ってきた。

ボランティアだけでなく日韓両国の文化交流、村の方々との交流など多くの活動を通じてたくさんの事を学んで感じる事ができるキャンプ活動をしている。

ハンセン病が医学的にはもう征服された一方、それに対する偏見から生ずる差別によってハンセン病快復者の方たちに対する否定的なイメージはまだ存在していて、ハナフェはそういった偏見を無くすのに少しでも役に立とうとしている。

主な活動として、夏休み期間中ハンセン病快復者定着村を尋ねて村人の家庭訪問や茶話、そして草刈りや畜舎整理、道路包装など村に役に立つ多くの活動をする。

キャンプには日韓それぞれ20名程度が参加し、年齢層は学生がほとんどでその外に10年以上参加してきたOBの参加もある。また参加費は全部実費。



Q. FIWCってどんな団体？

A. 創立60年の民間NGO

FIWCとは、フレンズ国際ワークキャンプ (Friends International Work Camps) の略称で、法人化されていない民間NGO (ボランティア団体)。

第2次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団 (AFSC) がワークキャンプを日本に伝えた。1950年代にAFSCから独立し、FIWCが結成。FIWCの「フレンズ」はその精神を受け継ごうという意志から採られたもの。

以来FIWCは、国内外でワークキャンプを50年以上行い、現在、FIWC 関東委員会、FIWC 関西委員会、FIWC 広島委員会、FIWC 九州委員会があり、それぞれが単独の団体として独自の活動をしている。

尚、FIWCは一般市民、学生による非政府組織 (NGO) であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係はない。



Q. 参加するにはいくら必要なの？

A. 平均的に6万6千円くらい

今年度の収支報告は以下

尚、100ウォン=8円とする。

収入		支出	
キャンプ費	¥134,400	キャンプ費	¥126,881
日本食代など	¥28,000	日本食代など	¥9,280
フリマ・カンパ	無し	キャッシュバック	¥3,200
繰越金	無し	繰越金	¥21,702
		繰越金 ウォン	¥1,337
計	¥162,400	計	¥162,400

一人当たりの参加費(円)		
キャンプ費	¥11,600	(日本食代含む)
保健代	¥5,000	(参加日数によって異なる)
渡航費	¥50,000	(渡航方法による)
合計	¥66,600	

※今回タイヤや道路舗装などのワーク費は村人自身が負担。

衛生品、ソウル~キャンプ地のバス代はハナ会OBからの援助にて、キャンパー出費なし。

FIWC 関東委員会 2009 韓国キャンプ報告書

編集：

三浦勇太、吉田亮輔、清水あゆこ

FIWC 関東委員会 韓国キャンプ

ホームページ <http://fiwc-k.com> お問い合わせ info@fiwc-k.com